

## 第3回 長野県私学振興大会

「学びの郷 信州」の一翼を担う  
私学教育の充実・発展を目指して

開催日時 平成28年12月21日（水）13時30分～

会 場 上田市「上田市交流文化芸術センター 小ホール」

主 催 公益社団法人長野県私学教育協会  
一般社団法人長野県私立幼稚園・認定こども園協会  
長野県私立中学高等学校協会  
一般社団法人長野県私立短期大学協会  
一般社団法人長野県専修学校各種学校連合会  
長野県私立高等学校PTA連合会

## 次 第

### I 式典（13：30）

1 開 会

2 開会のことば 長野県私立幼稚園・認定こども園協会 理事長 窪田英一

3 国歌斉唱

4 主催者挨拶及び現状報告

挨拶 長野県私学教育協会 理事長 宮川義典  
現状報告 長野県私学教育協会 副理事長 成田守夫

5 協会表彰（功労者表彰・特別表彰）

6 来賓祝辞

長野県知事 阿部守一様  
衆議院議員 小松裕様  
衆議院議員 木内均様  
長野県議会議長 向山公人様  
上田市市長 母袋創一様

7 来賓紹介

8 祝電披露

9 大会決議 長野県専修学校各種学校連合会 理事長 小林勝彦

10 閉会のことば 長野県私立短期大学協会 理事長 芝山豊

### II 生徒等に対する理事長表彰（14：50）

### III 対談（15：30）

リオデジャネイロオリンピック シンクロナイズドスイミング・チーム

銅メダリスト 箱山愛香様

・司会 長野日本大学高等学校校長 添谷芳久

・お礼の言葉 長野県私立中学高等学校協会 会長 百瀬康雄

## 主 催 者 挨拶

長野県私学教育協会理事長 宮川義典

本日、第3回長野県私学振興大会を開催いたしましたところ、多くの皆様にご参加いただき誠にありがとうございます。

また、阿部長野県知事様はじめ、ご来賓の皆様にはご多忙の中ご臨席いただき、重ねてお礼申し上げます。

私学教育の振興につきましては、平素より、格別なるご配慮とご指導をいただき関係者一同心より感謝申し上げます。

今、私たちが直面しております、人口減少と地域経済の縮小という課題を克服し、信州創生を成し遂げるためには、未来を創造していく人材の育成にかかっており、その役割を担う教育機関として、私立学校は不可欠であると考えております。

また、魅力ある子育て環境づくりや若者の結婚への夢や希望を叶えることができる取組、有為な人材の県内への定着等についても、私立学校が有する、社会の変化やニーズに柔軟に対応できる教育力によって可能になると思われます。

本日は、県内の私立幼稚園・認定こども園、小・中・高等学校、中等教育学校、専修学校・各種学校及び短期大学の教職員・保護者の皆様が一同に会しております。この大会を通して、私立学校が長野県教育及び地域社会の発展に更に貢献していく意志を、広く県民の皆様を発信したいと考えております。

しかしながら、公教育の一翼を担う私立学校は、少子化による園児や児童・生徒、学生の減少や社会経済の不安定等により、大変厳しい環境に置かれているのが現状であります。また、教育費に対する保護者の負担は公立学校に比べて依然として重い状況にあります。

私立学校が、今後も多様で特色ある教育を推進し、長野県教育に貢献していくためには、学校の経営基盤の安定が不可欠です。

県におかれましても財政事情が厳しいなかにはありますが、私立学校がその役割を果たし活性化することが、学びの郷信州の創造にも寄与するものと確信いたします。

私立学校の教育条件の維持向上と、私学助成の一層の拡充強化につきまして、特段のご高配とご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本大会にご協賛いただきました多くの企業様、団体様に心より感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。

長野県私立幼稚園・認定こども園協会理事長 窪田英一

人生の始まりである幼児期の教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を養う非常に重要なものです。

幼稚園・認定こども園は、教育基本法、学校教育法に基づく学校であり、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とするものであって、小学校以降の生活や学びの基礎を養う学校教育の始まりとしての役割を担う極めて重要な教育機関であります。

しかるに、長野県においては、幼稚園就園率は23.8%と全国最下位であり、子どもたちに対して十分な幼児教育が行われているか疑問を呈さざるを得ません。

幼児期の発達の状況や特性等を踏まえ、小学校以降における学びとの連続性を見通したうえで、幼児教育を充実していくことが重要であり、長野県の私立幼稚園・認定こども園はこの役割をしっかりと担っていきたいと考えています。

地方創生の観点からも、長野県の豊かな自然環境、地域資源を活かした直接体験を大切にした幼児教育を推進するなどして「幼児教育先進県長野」を確立し、これによって、県内の幼稚園教諭養成校出身者が県内の幼稚園等に就職するという好循環を作り出して、幼稚園教諭の人材不足の解消と幼児教育の質の向上などを図っていきたいと考えています。

また、人間関係や地域における地縁的つながりの希薄化、少子化・核家族化の進行による家庭の教育力の減退などの社会的背景により、安心して子どもを産み育てる環境が損なわれている面があります。私立幼稚園・認定こども園は、保護者や地域の子育てニーズの多様化に対応するため、保育時間の延長・拡大などの子育て支援や預かり保育に積極的に取り組んで、保護者の子育てでの不安や孤立感解消のための「子育て支援センター」としての役割を果たしており、一層この機能を充実させていきたいと考えています。

更に、小・中・高校での継続的な園児との交流体験学習によって、児童・生徒が子どもとふれ合い関心を持つことが、将来の結婚・出産・子育てにつながると期待されますので、このようなカリキュラムを積極的に受け入れていくことを検討したいと考えております。

信州の未来は、すべての子どもたちに良質な幼児教育保育を行っていくことにかかっており、長野県の私立幼稚園・認定こども園はこの役割をしっかりと担っていくことを決意するものです。

国並びに県におかれては、私立幼稚園・認定こども園の経営基盤強化のための財政的支援の更なる充実と幼児教育振興法案の制定と具体的施策の実行をご支援くださるようお願い申し上げます。

長野県私立中学高等学校協会会長 百瀬康雄

学校教育は、子どもたち一人ひとりの人格の完成を目指し、個性や能力を伸ばして個人の可能性を開花させ、様々な分野で活躍し国や社会を支えていく若者を育成することを目的としています。そのために、公教育は重要な役割を果たしておりますが、私立中学・高等学校における教育も、国・公立の学校と何ら変わることなくその一翼を担っております。

私立学校は、固有の建学の精神に基づき、運営や教育について自主性、独自性を発揮しやすいことに特徴があり、子ども達の個性を尊重しながら、豊かな人間性や創造性など、生きる力を養うためのきめ細かな教育を行っています。

現在、全国の高等学校に在学する生徒の約3割を私立高校生が占めておりますが、本県においては、私立高校生の占める割合は、県全体の2割にも及びません。今後、さらなる急激な少子化の進行により、本県の私立中学・高等学校の経営が著しく圧迫されるのではないかと懸念しております。

私立学校の健全な発展は、教育の選択肢を広げ、教育の画一化を防ぎ、多様な教育環境を県民に提供することを担保するものです。今後も、国・公立の学校と私立学校とが手を携えて、地域を担う人材や国際感覚豊かな人材を育成していくために、厳しい環境にある本県私立中学・高等学校に対して、それぞれのお立場からお力添えをいただければ幸いと存じます。

長野県私立短期大学協会理事長 芝山 豊

短期大学は、深く専門の学芸を教育研究し、職場や日々の生活に必要な能力を育成することを目的に、昭和25年に創設され、地域の身近な高等教育機関として社会の発展を支えてきました。その特色は、職能教育の基礎となる教養を修め、集中的に職業に適した専門教育を提供する点にあり、本県でも、幼稚園教諭や保育士、介護福祉士、看護師などの専門的職業人、また、地域における多方面の産業の担い手の育成に大きな役割を果たしてまいりました。

近年、我が国では2018年問題といわれる18歳人口の減少や学生のニーズの変化、加えて、長野県では、高校卒業者の多くが県外の高等教育機関に進学していくなど、短期大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。

しかし、短期大学は、自県内進学率の高いことに特徴があり、とりわけ本県の私立短期大学については、進学者のうち県内出身者が9割を超え、全国平均を大きく上回っています。卒業後の就職につきましても、本県の私立短期大学の場合は、県内への就職率が8割を超えています。学生の大部分を県内から受け入れ、卒業生の大部分が県内での職場を確保している事実を見れば、短期大学が長野県の活性化に大きく寄与しているものと自負いたしております。また、このことは、これまで短期大学が行ってきた地域密着型教育への信頼の賜物であろうと考えております。

今後も、この輝かしい実績を継承し、地域の信頼に応え、専門職に従事する人材や地域の中核的人材の育成、またコミュニティーの生涯学習の拠点として、地方創生や地域活性化に一層寄与してまいりたいと存じます。

本日の大会にお集まりいただいた皆様に、高校生が卒業後も長野県内に残りたいと思える魅力ある高等教育の環境づくりやグローバル化への対応に、更なるお力添えをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

長野県専修学校各種学校連合会理事長 小林勝彦

各種学校は、明治12年の教育令に始まり、現在に至るまでの長きにわたって幅広い教育が行われてきました。

また、専修学校は、職業や實際生活に必要な能力の育成と教養の向上を目的に、昭和51年に新しい学校制度として創設され、実践的な職業教育、専門的な技術教育を行い、多岐にわたる分野でのスペシャリストを育成してきました。

本県におきましても、これまで、専修学校各種学校は、社会の変化に対応した多様な職業教育を実施して、各分野の専門的、技術的な知識及び技術を習得した多くの人材を産業界に送り出してきました。

今日、産業や社会構造の変化、グローバル化が進む中で、経済社会の一層の発展を期するためには、経済再生の先導役となる産業分野の雇用拡大や人材移動を円滑に進めるとともに、個人の可能性を最大限に発揮し、地域再生の中核的な役割を果たす専門人材の養成が必要不可欠です。このため、社会人がキャリアアップに必要な実践的な知識や技能を習得するための学習の場が求められており、実際、高校卒業生ばかりではなく大学卒業生や社会人も専門学校に入り直して学ぶ人が増加してきています。

こうした意味で、職業教育を受けて専門的な技術を身に付けた卒業生の多くが県内に就職する本県の専門学校（専修学校専門課程）は、地域密着型の高等教育機関として本県の地域振興に大きな役割を果たしています。

さらに、本県では現在、14の専修学校の33学科が文部科学大臣から職業実践専門課程の認定を受け、企業等と連携して教育課程を編成するなど、より実践的な職業教育の質の確保に努めているところです。

世界的な経済社会の変革が進む今日、職業教育は、若者が自らの夢や志を考え、目的意識をもって実践的な職業能力と技術を身に付けられるようにするとともに、産業構造の変化や技術革新等に対応するプロフェッショナル教育として一層の充実を図ることが重要であることから、当連合会としても一層の努力を重ねてまいります。

## 協会表彰受賞者

(敬称略・順不同)

### ○功労者表彰

住吉 廣行	松本大学松商短期大学部学長
白井 汪芳	佐久大学信州短期大学部学長
西沢 善明	前長野清泉女学院中学・高等学校校長
原田 正男	元長野県私学団体連合協議会事務局長

### ○特別表彰

箱山 愛香	栗田病院 (長野日本大学高等学校卒・オリンピック銅メダリスト)
-------	------------------------------------



## 大会決議

長野県の私立学校は、それぞれが建学の精神に基づく特色ある教育を行うとともに、学校教育を取り巻く環境の変化に対応しながら、先進的な教育を積極的に展開して、有能な人材を育成すべく努力して参りました。

これからも長野県で育つ子どもたちの教育に、責任を持って尽力していく決意であります。

しかしながら、いま、私立学校は、少子化による園児・生徒・学生の減少等に直面し、財政基盤の脆弱な私立学校の経営環境は一層厳しさを増しております。

私立学校が特色ある教育を推進し、長野県の未来を創造していく人材を育成していくためには、学校の経営基盤の安定が不可欠です。

そして、私立学校がその役割を果たし活性化することが、学びの郷信州の創造にも寄与するものと確信いたします。

私たち私立学校は、公教育の担い手であることを強く自覚するとともに、私学振興に対する県民あげての期待を重く受けとめ、長野県教育の充実になお一層努力することを誓い、次の事項を決議します。

### 記

- 1 私学経営の健全化のため、私立学校に対する財政支援を充実すること
- 2 幼児教育の振興のため、幼児教育振興法案を制定し、具体的施策の実行に努めること
- 3 より良い教育を行うため、また経営の安定のため、私立高等学校の生徒数の安定的な確保に努めること
- 4 高等学校卒業者の県外流失を抑制するため、専修学校及び短期大学の在學生に対する奨学金制度を新設すること
- 5 魅力ある私学教育を目指して、私立学校間の連携を強化すること

平成28年12月21日

公益社団法人長野県私学教育協会  
第3回長野県私学振興大会

## 対 談

演題 「シンクロとわたし」

講師 オリンピックメダリスト 箱山愛香様

・司会 長野日本大学高等学校校長 添谷芳久

### <講師プロフィール>

- ・小学校2年生のときにシンクロナイズドスイミングを始める
- ・長野日本大学高等学校から日本体育大学に進学する
- ・大学卒業後、長野市に戻り、栗田病院に勤務しながら競技生活を送る
- ・主な成績

2012年、ロンドンオリンピックに出場	チームで5位
2014年、アジア競技大会に出場	チームで2位
FINAワールドカップに出場	チームで2位
2015年、世界水泳選手権に出場	チームで3位
2016年、リオデジャネイロオリンピックに出場	チームで銅メダル獲得